

平成3年度 中央公民館の 教室・サークル

生 講 募 集

受講希望者は、希望教室・サークル、住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、市立中央公民館（大樋甲二二五）へ直接またはハガキでお申し込みください。

■申し込み締切日 4月1日（月）※場所の指定がないものは、いずれも中央公民館で行います。詳しいことのお問い合わせは、市立中央公民館（☎3498）まで。

教室

《三味線・太鼓》

日時 第1・2・3水曜日 午後7時～9時
講師 高橋君代さん
場所 大篠地区公民館
会費 1カ月400円

サークル

《墨 絵》

日時 第1・3水曜日 午後1時30分～3時30分
講師 西本倍崇さん
場所 大篠地区公民館
会費 1カ月1千円
※運筆大小、墨、硯、筆洗、絵皿、古新聞、筆拭い布、文鎮、画仙紙等を持参してください。

《編み物(手編み)》

日時 毎週月曜日 午前9時30分～午後3時30分
講師 高橋君代さん
会費 1カ月2千円

《ヨーガ》

日時 昼の部 毎週木曜日 午

前10時～12時、夜の部 毎週月曜日 午後7時～9時
講師 安岡芳徳さん
会費 年4回、1回2千円（3カ月分）

《茶道(裏千家)》

日時 第1・3水曜日 午後6時～9時
講師 松木末尾さん
場所 後免町公民館
会費 1カ月1千円

《喜多流謡曲》

日時 毎週木曜日 午後7時～9時
講師 野村幸太郎さん
会費 1カ月3千500円

《女声コーラス》

日時 毎週金曜日 第1・3日 午前10時30分～12時、第2・4日 午後7時30分～9時
講師 西本佳奈子さん
場所 大篠地区公民館
会費 1カ月500円

《華道》

日時 第1・2・3土曜日 午

後1時30分～3時30分
教授 岩谷美子さん（未生流）
会費 格華1カ月3千円、新華1カ月2千円

《市民句会》

日時 第1・2・3水曜日 午後7時30分～9時
講師 池本豊子さん（真生流）
会費 1カ月2千円
※昼、夜の部とも材料代は別に必要です。花器は各自持参してください。

《詩 舞》

日時 第1土曜日、第3火曜日 午後7時～9時
講師 森武司さん
会費 1回200円

《陶 芸》

日時 毎週土曜日 午後7時～9時
講師 井上英子さん
会費 1カ月2千円

《詩 吟》

日時 第1・2・4火曜日 午後7時～9時
講師 島村辰彦さん
会費 1カ月1千円

《読 書》

日時 4月6日より（月2回、未定） 午後2時～4時
講師 田岡信雄さん
会費 1カ月1千円

《さつき教室》

日時 第2・4日曜日 午前10時～12時
講師 小松和夫さん
会費 1カ月1千円

《洋 画》

日時 毎週水曜日 午後7時～9時
講師 藤崎幸雄さん
場所 大篠地区公民館
会費 6カ月1万円

《洋 裁》

日時 毎週木曜日 午前9時30分～午後3時30分
講師 木下真理子さん
場所 旧大篠女学院
会費 1カ月2千円

小さな掛金

大きな安心

スポーツ安全保険に加入しましょう

余暇時間が増え、同好会などを作ってスポーツを楽しむ方が多くなっています。その一方で活動中にけがをするケースも増えています。

市民体育館では、体育・スポーツ活動や社会教育活動にかかわる皆さんが、安心して積極的な活動ができるよう、スポーツ安全保険への加入をお勧めしています。5人以上のグループであればいつでも加入できます。掛金は、中学生以下の子供のグループや高校生以上の文化・社会奉仕活動の団体は、一人に

補償額		高	最
死亡・後遺障害入院	1,400万円	1日につき	4,000円
入院	1,300円	1日につき	1,300円
身体賠償	1億円限度	1事故につき	1億円限度
財物賠償	500万円限度	1事故につき	500万円限度
見舞金	50万円	心臓マヒ等の死亡	

つき年300円、60歳以上の老人クラブは500円、高校生以上のスポーツの団体は1千100円で、加入した方が所属している団体が活動中の事故や、活動場所への往復中の事故に対して保険金が支払われます。

加入手続きなど、詳しいことのお問い合わせは、市民体育館（☎3498）まで。

バイク・軽自動車 所有しなくなったら 必ず廃車手続きを

バイク等、軽自動車を所有しなくなったときは必ず廃車等の手続きをしてください。手続きをしないといつまでも税がかかります。人に譲った場合も手続きをしないとあなたに税がかかります。

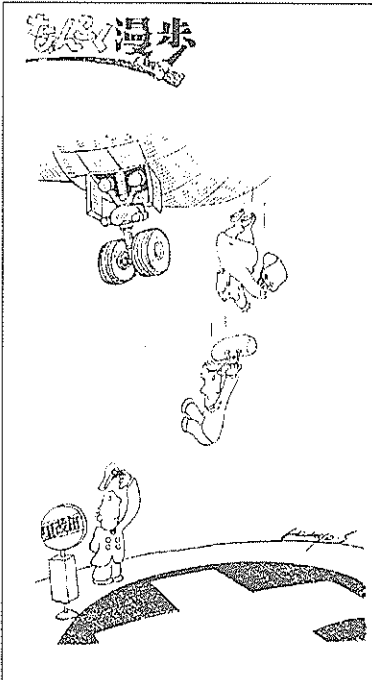
盗難・紛失等事故にあった場合の廃車手続きは、警察への届け出、そして、関係機関への廃車手続きといった手順になります（そのままにしておいたり警察に届けをしただけでは、いつ

までも税がかかります。

- 車種別届け出先
- 原動機付自転車（50～125cc・ミニカー）、小型特殊自動車 市役所税務課（☎2111内線157）
- 二輪の軽自動車（126～250cc）、二輪の小型自動車（251cc以上） 二輪の小型自動車（251cc以上）

途中下車 『うちの近くでおいとせ』

沢本英世（里改田）



南国歌壇

金毘羅宮の坂のなかに見はるかす 春の潮はしづかに強し

立田 島田美津子

公園に咲きて乱るるサザンカは 春の足音紅保つ

久枝 徳久昌男

切れ味の衰え見せぬ斧の柄に 父子三代の手津み深し

西山 岩貞健一郎

記念にと乙女椿の一株を 六年の月日たちて初咲き

立田 国繁和子

姥谷のなだり明るし黄の色の 湧くがごとくにみつまた匂ふ

野田 吉川定子

南国柳壇

いたづらのひ孫の漫画の年賀状

西山 竹村寿賀

朝の床我が身はけまじやとぬけ 十市 大家寿恵子

杉花粉都までゆき人泣かせ 十市 武市日出志

孤独な夜自分史そと開けてみ 廿枝 島田八重子

南国俳壇

寒卵五つ貫いて夕焼ける 遠い戦火タイムカードを押す二月

岡田寿子花おうち俳句会

早春や義母へのきづな濃くする 街並を指呼に城跡の山粧ふ

福井博子

朽ち舟の水漬しまくや藤枯る 山茶花の紅散りばめて鯉の水

岡田昌子

ほぐれゆく物芽に霜の続きけり 浄め水浴びたる湯気や裸押

野島卓子舟入句会

大風の下りてしばしのうねりかな

墨若めぐみ

中村正香大湊句会

東村耕牛